

日本英語教育史学会 会報

267

2015 年 2 月 6 日

HiSET *Society for Historical Studies of English Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

学会ウェブサイト <http://hiset.jp/>

日本英語教育史学会 (代表 江利川 春雄)

【事務局】和誠堂文庫

〒121-0011

東京都足立区中央本町 5-10-22

e-mail: membership@hiset.jp

口座 (名義) 日本英語教育史学会

ゆうちょ銀行: 00150-3-132873

三菱東京 UFJ 銀行 千住中央支店

(普通) 0997182

第251回研究例会報告

2015 (平成27) 年 1月11日 (日), 拓殖大学 国際教育会館 (東京都文京区大塚) において, 第251回研究例会が開催されました (参加者37名)。今回は, 日本英語教育史学会30周年記念の特別企画として, 「回顧と今後への期待」というテーマでシンポジウムが行われました。発表者は創設期の事務局を担当された茂住實男氏 (拓殖大学), 元会長の小篠敏明氏 (福山平成大学), また発表兼コーディネーターを前会長の竹中龍範氏 (香川大学) が担当されました。

以下に出席者の感想を掲載します。ご参照ください。

◇ ◇ ◇

◆日本英語教育史学会 30 周年記念「回顧と今後への期待」は, 素晴らしい企画でした。茂住先生の各会長への回顧のお話はそれぞれリーダーとしてだけでなく, 研究者として日本のこれまでの英語教育界を導いてこられた経験と自信からの私たちへの指針のメッセージでもありました。また小篠先生の研究者として日本だけでなく世界に出て行く人材を育てると同時に, ご自分も成長しようとする姿勢を自ら示しておられ衰えぬ研究心に敬服しました。

竹中先生の会長任期の間は, 会長としての地道な努力と精力的な活動にフロアからはいつ休むのかという言葉も飛び交うほどでした。先生方の貴重なお話を聞かせていただき本当に有意義な時間でした。感謝申し上げます。

<K.S>

◆本日は学会創立 30 周年記念例会ということで, 歴史を振り返りながら, 貴重なお話を聞かせていただきました。

今回, 島岡先生が体調不良ということで, いらっしゃることができなかったのは残念でしたが, いつかお話を聞かせていただく機会がまたあればと思います。

また, 会場には貴重な資料も展示されており, 興味深かったです。本日は, ありがとうございます。
<R.N>

◆3人の先生方およびフロアの先生方, 貴重なお話をありがとうございました。

私自身, 入会に間もなくまだまだ英語教育史の右も左も分からない状態ではありますが, 「若さ」を活かして英語教育史の楽しさ, 奥深さを周囲に伝えることをできる範囲行いたいと思います。
<上野舞斗>

<発表を終えて>

日本英語教育史学会 30 周年記念シンポジウム「回顧と今後への期待」の
コーディネータ、パネリストを務めて

竹中 龍範 (香川大学・前会長)

<コーディネータとして>

昭和 59 (1984) 年 12 月 8 日、わが日本英語教育史学会が日本英語教育史研究会として呱呱の声をあげてから昨年 12 月を以て 30 周年を迎えました。これを祝して年が明けた 1 月例会を記念例会とすることが昨年度中の役員会において決定され、特別企画として記念シンポジウムと小資料展を行うこととなって、うち記念シンポジウムのコーディネータを筆者が仰せつかりました。パネリストには、学会草創期の事務局長を担っていただいた茂住實男先生、第 3 代会長をお務めいただいた小篠敏明先生、評議員として長らく学会を見守っていただいた島岡丘先生をお願いし、これに筆者も第 4 代会長という立場で加わるということになりました。3 名の先生方には副会長の佐藤恵一先生から内諾を得ておりましたので、昨年 11 月の研究例会後に筆者からそれぞれのご発言の内容に関するお願いを申し上げ、去る 1 月 11 日 (日)、建物は異なりますが、学会発足の地である拓殖大学において第 251 回研究例会を迎えた次第です。



ただ、残念なことに、島岡先生にはご健康上の理由から当日はご欠席になられました。しかし、資料をご準備いただいていた、奥様が会場にお届け下されましたので、これを参加者に配付し、少し時間をとって目を通してもらうことで、島岡先生のご発言に代えました。先生にはお見舞いを申し上げますとともに、一日も早いご快癒をお祈り申し上げます。

提言後の質疑応答の時間にはフロアーのほうから熱心なお尋ねをいただき、後の懇親会の時間を心配せねばならぬほどとなって盛会裡にシンポジウムを閉じることができました。パネリストの先生方、並びに、ご参加下された会員の方々や学生さんに篤く御礼申し上げます。

<パネリストとして>

筆者が初代出来成訓先生、2 代伊村元道先生、そして 3 代小篠敏明先生の跡を襲って第 4 代会長の任を受けたのは平成 20 (2008) 年のことでした。この年、全国大会は日本英学史学会との共催により、フェートン号事件の舞台となった長崎にて 10 月に開催することになっておりましたので、5 月は総会と通常の月例研究会とすることが決定されていて、その総会にて会長に選任されました。爾来、3 期 6 年に亘り学会運営の職責を無事に果たすことができましたが、これも役員の方々、就中、副会長として何かとご尽力下された江利川春雄、佐藤恵一の両先生、事務局長として専門職に劣らぬ技量を發揮下された河村和也先生、広報担当としてウェブページの運営、会報の編集等に鬼才を見せられた馬本勉先生には陰になり日向になって支えていただきました。この場を借りて改めて深謝申し上げます。

6 年の在任期間中には、シンポジウムの際に配付した発言要旨にまとめたように、さまざまなこ

とがありました。フェートン号 200 年記念のジョイント全国大会のような明るい話題もあれば、東日本大震災の発生による研究例会の中止・全国大会の延期や剽窃問題の発覚など事件と云ってよいようなこともありました。何よりも、学会 30 年の歩みの間、常に精神的な支えとしてわれわれを見守り、また導いて下された先生方が、高梨健吉先生、松村幹男先生をはじめとして、相次いで亡くなられたことが痛恨の極みです。これまでにいただいたご指導に御礼を申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

30 年と言えば一世代に当たります。而立の年であるとともに、これは自立にも、また、自律にも通じようかと思えます。さいわい若い研究者の入会も相次ぎ、新しい研究手法を取り入れての研究が展開されています。第 2 世代の筆頭に立つ江利川新会長の下に学会として大きく育てていただくことを祈念申し上げます。

◆本日は貴重なお話をありがとうございました。こちらの学会には何度か参加させていただいていますがいつもの研究発表と違ってシンポジウムという形だったので新鮮で印象に残るものとなりました。

島岡先生は本日休まれたので直接お話を聞くことができなくて残念でしたが、頂いた資料の中にあつたカナ表記に関する言及がとても興味深かったです。過去にも先生が発表なされたようですが、是非その場で聞きしたかったです。島岡先生が早く回復なされることを祈ります。

茂住先生は四代の会長がおっしゃっていた言葉をたくさん紹介してくださいました。すべてが心に残るものでした。また、先生のお話で「日本英語教育史学会」が創設された当時は「英語教育史」というものになじみがなかったことがよくわかりました。そのような状況下で創設しようとなされた先生方を尊敬いたします。その当時「日本英語教育史学会」がうまれたからこそ「英語教育史」という分野が広く知られている現在があるのではないのでしょうか。小篠先生のお話の中にあつた「歴史は学門としては認められていなかった」という事実には驚きました。だから「英語教育史」にもなじみがなかったのでしょうか。また、先生には「役員さんたちが献身的に活動してくれているのを見て(学会がだめになる)

心配はいらないと思った。」というようなことをおっしゃっていましたが、それに加えて、費用的な面で困窮していた学会を工夫して救った子篠先生やワープロで資料をまとめてくださっていた茂住先生のように苦勞して一生懸命に取り組んでこられた方々がいるからこそずっと続いてきたのですね。このような歴史ある学会に参加できることを本当に嬉しく思います。

また、竹中先生は 6 年間会長を務められたということで、その間どんなことがあつたかをお話ししてくださいました。私が参加していない過去の学会での講演内容や出来事を聞くことができ嬉しです。

<沼田ひかる>

◆英語教育史学会 30 周年ということで、これまでの歩み、さらに展望を拝聴させていただくことができ、とても勉強になりました。

「過去から謙虚に学ぶ」という姿勢のもと、地道に研究をつづけて来られたことに、自分の勉強に対する取り組みの甘さを感じさせられました。

教職を目指している学生ですが、まだまだ修行が足りぬ身で、「英語を学び、教える背後にあるより大きな歴史の流れ」すら知識としての貯蔵が十分になく、理解が浅いです。十分に理解できるようにさらに勉強したいと感じました。

<H.S>

<発表を終えて>

発表を終えて

茂住 實男 (拓殖大学・創設期事務局担当)

私に与えられましたテーマは、事務局担当者として学会創設期を回顧することでした。研究会設立趣意書・会則等の作成、発起人依頼、入会者募集、設立総会・懇親会場設営、最初数回分の例会発表者の決定、上記に関わる諸書類の発送作業等々が、当時の手帳のあちこちに書き散らかしてあります。それらを見ていますと、大変だったのかなとも思うのですが、今となっては、出来成訓・伊村元道両先生が主に対外関係を、庭野吉弘先生と私がそれ以外を受け持って、月に1, 2度集まっては一杯飲みながらそれらの進捗状況を話し合ったことが、懐かしく思い出されるだけです。



そういう次第で、今回のシンポジウムでは、①研究会をつくることになったきっかけ——上記4人が所属していた日本英学史学会というのがあり、そこでの研究発表の半分近くが英語教育史関係であったことから、それを専門的に研究する会をつくらうということになったこと、②研究会創設のころは「(日本) 英語教育史」という用語が、辞書的な意味はさておき、英語教員の間でさえも馴染みのないものであったこと、などを申し上げました。

回顧のほかに「今後への期待」も要求されたのですが、これについては本会紀要第25号に掲載の歴代会長の「座談」をお勧めすることで責めを果たしたことにして、文部省中等学校教員検定試験(文検)のうち、英語科の制度・試験委員・試験問題・合格者のことなどを若干紹介して、それらの研究をしてみようという会員はいませんかとご提案した次第です。

◆日本英語教育史学会創立30周年記念例会に参加させていただき感謝いたします。学会継続的運営がいかに大変、かつ重要かが分かりました。茂住先生からは創立以来の本学会の歴史を、特に、次の世代に伝えたいことは何かを歴史的証言として学びました。小篠元会長からは、研究内容と方法、竹中元会長からは、会長としての業務内容と運営方法、さらにこれからの学会に対する要望事項。島岡先生(印刷物)からは、大学研究室の歴史の変遷。最適な教育の将来を計画・実行・評価・再挑戦する際の基礎は歴史的研究に基づくものであろうから、本学会での資料の蓄積や研究等の大切さを再確認しました。

<三浦>

◆本日、私が一番楽しみにしていたのは島岡先生の話しでした。教科書の話をしに来られたことは覚えていたので、今度は英語教育史的な観点からお話を伺えるかと思い、大変楽しみにしていました。昨年かに先生が講演されていたのを知っていればよかった、前々から参加していればよかったと今思います。島岡先生が元気に発音指導をしている姿が見たく思います。

学生の学会への興味という点ですが、読書量の問題もあり得ると思います。「クローズアップ現代」で見たように、図書館は窮地に追い込まれているということもあります。私も友人などを誘って輪を広げたく思います。

<川崎嵩士>

< 発表を終えて >

発表を終えて

小篠 敏明 (福山平成大学・元会長)

久しぶりに皆さんにお会いすることができてとてもうれしいひと時でした。妻の病気以来、もう皆さんにお会いする機会もないだろうと思っていましたので、望外の幸せなひと時でした。このような機会を与えていただき、心から感謝しています。

発表は、学生への話は別として、本当に久しぶりでしたので、かなり緊張しました。ただ、外から見ていると、内にいる時とは違って、見えてくるものもあるように日ごろ感じていましたので、その思いを誠実に、心を込めてお話をさせていただきました。そのような思いはある程度伝えることができたように感じています。しかし、これは外からのコメントですから、その



のまま実行に移すことが妥当なこととは限らないと思います。内において、直接的に学会活動にかかわっている皆さんが、問題点を総合的な視点から検討しつつ、その妥当性、実行可能性等を評価して、ことを進められるのが正しい道筋だと思います。

発表時の私の思いはただひとつ。若い研究者の皆さんが、将来への希望を持って研究を進められる様な環境を整えてあげたい、ただこの一点でした。この思いは他の発題者の皆さんと同じだと確信しています。

◆茂住先生へ・・・「自学自習の人々の受け皿であった「文検」の問題を分析すれば、当時の英語教員になろうとしている人々に、どんな知識を持っていてほしいと出題者が考えていたかがわかる」という趣旨のご指摘に大変刺激を受けました。個人的には現在、英語教育政策に関連する法令や政策提言を分析しながら、そこに読み取れる「言語文化観」、あるいは「言語文化教育観」を調べております。是非、「文検」の問題分析に挑戦してみようと思いました。

・小篠先生へ・・・先生が学会賞の設立を目指した理由や本学会のすそ野を広げるためのご提案の端々に、先生のお心の優しさ、小さき者、弱き者に寄り添う姿勢というものが感じられました。ご家族の介護で本当に大変であろうと拝察いたしますが、もっともっと先生には本学会へ顔を出していただきたいと心より願っている次第です。また、「文法統制」のお話も、

大変興味深く、先生の御研究を改めて後追いさせていただきます。どうかどうか、天王寺での例会へもご参加ください！本当にありがとうございました。

・竹中先生へ・・・「ソメティメス」のお話、「< 定着を求めない > というのと < 定着を目指さない > というのは別である」というご指摘、そして「忙しい時ほどいい研究をする」というご経験談、本当に肝に銘じておきたい、いいお話ばかりでした。教員養成に関わっている者として、英学史や英語教育史以外のお話も、今後、是非とも伺いたいと願っております。ありがとうございました。

< 拝田清 >

◆英語教育史の歴史をどう見るか、という視点に興味があります。それによって現在、そして今後の英語教育のあり方を提言できるのではないかと思います。 < みをつくし >

◆本日は日本英語教育史学会が創立 30 周年を迎えられたということで、創立以来の様々な出来事を織り交ぜながら貴重なお話を伺うことが出来、又 30 年の歩みを知ることも出来ました。

30 周年を迎えるに至るまでには、初代に会長を務められた方を初めとする沢山の人の努力と工夫があつてこそなのだとことを実感しました。30 周年記念という節目の会に出席することが出来たことをとても嬉しく思います。本日は、ありがとうございました。

<N.H>

◆学会創立 30 周年にふさわしく、過去の足跡をたどると同時に、未来のための豊富な示唆を頂いたシンポジウムでした。冒頭で茂住先生が、学会への要望に関する歴代会長の発言を整理して下さったので、流れが鮮明になりました。小篠先生は学会活動の間口の拡大、若手会員と

の共同研究、予稿集の発行など、学会発展のための具体案を提示され、大胆な改革を訴えられました。竹中先生は設立趣意書の原点の再確認、英学史研究との相違、「マクロな基礎の上にミクロにまで至る基本を築くこと」の大切さを強調されました。3 人の先生のご提案を正面から受けとめ、行動を起こしていきたいと強く思うシンポジウムとなりました。心から感謝致します。

<みかん舟>

◆学会の 30 年という歴史を振り返る中で、日本英語教育史学会発足当時は英語教育史というのはなじみの薄いものであったと知って驚きました。

教育学、特に教科教育学は思っていたより歴史の浅いものだと知りました。

本日は貴重なお話をありがとうございました。

<高野詩織>

>> 今後の開催予定

- ◆第 252 回研究例会 2015 年 3 月 15 日 (日) あべのハルカス 23F 四天王寺大学
あべのハルカス サテライトキャンパス (大阪市阿倍野区) にて

<第 252 回研究例会の発表概要>

英語教育史入門セミナー (第 1 回) 「小学校英語教育は戦前から行われていた」

江利川 春雄 氏 (和歌山大学)

小学校英語教育の歴史と研究法を、予備知識のない人にもわかるようにお話します。英語教師の確保、開始学年と時数、国語教育との関係、教材や教授法、中学校との整合性など、明治時代から試行錯誤を重ねてきました。そうした先人たちの思索と実践から謙虚に学び、現在の問題を解決する手がかりを得ましょう。子どもたちを犠牲にしないために。

研究発表 「明治初期の教科書調査から見た公立小学校英語教育の研究
大阪愛日図書館所蔵教科書を中心に」

田畑 きよみ (東京大学大学院)

大阪府では明治 6 年に英語専門学校の欧学校を設立した。設立にあたって選抜された 10 歳以上の小学生が受験したが試験に合格した生徒の中に東大組第十三区小学校 (後の愛日小学校) 在校生がいた。当時は教科書が不足していたため学校に教科書が保存されていることは稀であるが、同校の教科書には複数の洋書を初めとした英語書籍が含まれる。学校所蔵教科書を調査することにより、明治初期公立小学校での英語教育の内容が類推できる。

- ◆第 31 回全国大会 2015 年 5 月 16 日 (土)・17 日 (日) 久留米工業高等専門学校 (福岡県久留米市) にて (★全国大会の申込方法等, 詳細は p.7 をご覧ください)
- ◆第 253 回研究例会 2015 年 7 月 19 日 (日) 東京都で開催予定

研究例会での発表を希望する会員は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要(100～200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上 4 点を明記の上、発表希望月の前々月 10 日 (7 月発表希望であれば 5 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp
TEL&FAX 073-457-7433

日本英語教育史学会第 31 回全国大会 (九州大会)

参加および発表申込について

2015 年度の全国大会を次の通り福岡県久留米市で開催します。皆様ふるってご参加ください。

開催日： 2015 年 5 月 16 日 (土)・17 日 (日)

会 場： 久留米工業高等専門学校 (福岡県久留米市小森野一丁目 1 番 1 号)

JR 久留米駅から西鉄バス「高専前」下車徒歩 1 分

(JR 久留米駅よりバスで所要時間 15 分, 約 2.5km)

- ・例年通り、会員のみなさまから多数のご発表をいただきますようお願いいたします。発表時間は質疑応答を含めて 25 分間です。
- ・大会参加費は、一般会員 2,000 円、学生会員 500 円、非会員は無料です。
- ・懇親会は 5 月 16 日 (土) に JR 久留米駅近くで行います。会費は 6,000 円の予定です。
- ・大会諸経費の納入については、次号の会報でお知らせします。
- ・宿泊をご希望の方は各自でご手配ください。

大会参加申込について

大会参加・発表希望者は、研究発表や懇親会参加の有無ほか必要事項を明記し、大会事務局 (担当・拝田) 宛にメールもしくはハガキで、3 月 12 日 (木) 必着にてお知らせください。ハガキをご利用の方は、同封の「第 30 回全国大会参加申込書」をご利用ください (恐れ入りますが、50 円切手をお貼りください)。

発表予定者をお願い

大会での発表をお申し込みの方は、発表要旨 (レジュメ) を 1,000 字を目安にまとめ、3 月 31 日 (火) 必着にて郵便または電子メールで以下までお送りください。要旨集のレイアウトはパソコンを用いた簡単なものとなりますので、複雑な組版をご使用の場合は B5 判の印刷原稿 (版下) を郵送してください。

※大会参加申し込み、および発表要旨（レジュメ）の送付先：

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前 3-2-1

四天王寺大学教育学部 拝田研究室内

日本英語教育史学会 第 31 回全国大会 大会事務局

e-mail: tufs3haida@hotmail.com

》 英語教育史フォルダ

- ◆寺沢拓敬会員『「日本人と英語」の社会学・なぜ英語教育論は誤解だらけなのか』
研究社、2015年1月刊、2808円
- ◆高林茂・江利川春雄両会員のインタビュー記事「<ゼロからの希望 戦後 70 年>
③不遇の英語教育 喜寿目前 米留学かなう」（共同通信配信で『愛媛新聞』2015 年
1 月 27 日付ほか全国 25 紙に掲載）。

》 事務局より

◆理事会を開催

第 251 回研究例会に先立ち、1 月 11 日（日）正午より例会会場隣室において 2014 年度第 2 回定例理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

(1) 第 31 回全国大会（九州大会）の概要について

来年度の全国大会は本年 5 月に福岡県久留米市の久留米工業高等専門学校で開催されることを決めました。詳細は 7 ページをご覧ください。

(2) 論文審査の結果について

今年度の審査結果について、論文審査委員会より報告を受けました。

(3) その他

その他、以下のことがらが話し合われました。まず、(a) 学会活動を活性化するための方策を検討しました。次回以降の理事会でも検討は継続しますが、手始めに若手研究者の育成を目標に「英語教育史入門セミナー」を研究例会においてプログラム化することになりました。これはさっそく次の例会より始めます。また、(b) 学会の活動も多岐にわたってきたことから、内規集を整備することにしました。

(文責：事務局長)

◆論文審査委員会を開催

2014 年度第 2 回論文審査委員会は、去る 1 月 11 日（日）午前 10 時より拓殖大学文京キャンパス国際教育会館（F 館）において開催されました。投稿された論文について審査したところ、2 本の論文が掲載もしくは修正のうえ掲載の結果となり、今後、期限までに最終稿の提出されたものについては学会誌『日本英語教育史研究』第 30 号上で発表されます。学会誌は 5 月の全国大会に合わせて刊行の予定です。

(文責：編集委員長)

◆会費納入について (お願い)

日本英語教育史学会の会計年度は 4 月より翌年の 3 月までです。今年度および昨年度の会費を未納の方は年度末までにご送金くださいますようお願い申し上げます。未納のみなさまへのご案内は順次お届けしておりますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

なお、2 年連続して会費の納入がない場合には退会の手続きを取らせていただくことになっております。該当の方には年度末までに連絡申し上げますので、よろしくご対応くださいますようお願いいたします。

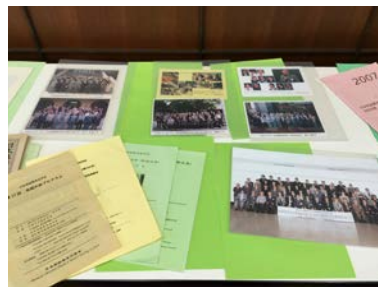
会 費	一般：5,000 円／学生：3,000 円
送金先	ゆうちょ銀行：(振替口座) 00150-3-132873 三菱東京 UFJ 銀行千住中央支店：(普通口座) 0997182
	* 口座名義はいずれも「日本英語教育史学会」です。

◆学会創立 30 周年記念「小さな小さな資料展」を開催

第 251 回研究例会を学会創立 30 周年の記念例会として開催するにあわせ、「小さな小さな資料展」を開催しました。

例会会場となった F301 教室の後方に置かれた机には、学会創立前夜の貴重な資料である参加確認の葉書をはじめとして、創立総会に寄せられた祝電や「日本英語教育史研究会」と刻まれた公印など、初公開となる貴重な資料も展示されました。さまざまな発信元の名が封筒に残された『月報』、過去の全国大会の記念写真やプログラム、また、カラフルな表紙の会員名簿といった懐かしい資料を手にとり、昔話に花を咲かせる姿もみられ、記念例会に花を添えるものとなったようです。

今回の展示に際し、貴重な資料をご提供くださいました会員の鉄森令子さんにこの場を借りてお礼申し上げます。事務局では今後とも会のあゆみを伝える資料の蒐集に務めてまいりますので、会員のみなさまのご協力をお願い申し上げます。(事務局)



EDITOR'S BOX 先日約 2 年ぶりに茗荷谷を訪れましたが、今までなかったお店がいくつかできていたり、その逆にこれまであったお店がなくなっていたりと、たった 2 年とはいえかなり変化した印象を受けました。私のいる秋田もお店は変わっていきますが、どちらかというと営業をやめてしまうお店が多い印象を受けています。アベノミクスの効果が地方に波及する前に不景気にならなければいいのですが… (若)

第 252 回 研究例会のご案内

日 時： 2015 (平成 27) 年 3 月 15 日 (日) 午後 2 時～5 時
会 場： あべのハルカス (大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43) 23 階
四天王寺大学サテライトキャンパス

英語教育史入門セミナー (第 1 回)

「小学校英語教育は戦前から行われていた」

江利川 春雄 氏 (和歌山大)

研究発表

「明治初期の教科書調査から見た公立小学校英語教育の研究
大阪愛日文庫所蔵教科書を中心に」

田畑 きよみ (東京大学大学院)

参加費： 無料

問 合 先： 日本英語教育史学会例会担当 (email: reikai@hiset.jp TEL&FAX 073-457-7433)
学会ウェブサイト： <http://hiset.jp/>

★会員外の方の研究例会へのご参加を大いに歓迎いたします。

会場へのアクセスマップ (あべのハルカスウェブサイトより)



〒545-6023 大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43939 あべのハルカス 23 階

TEL : (06) 6624-9200 FAX : (06) 6624-9201

URL : <http://www.abenoharukas-300.jp/access.html>